

今後増えると予想される若年がん患者の治療後の不妊症

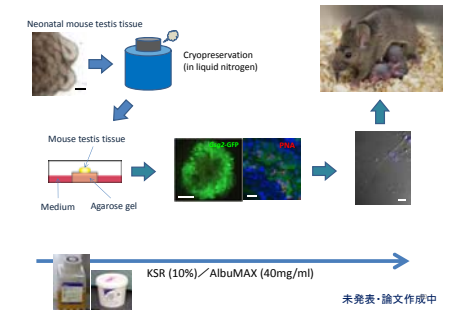
- がん患者全体に占める20歳未満の患者は1.1%
- 近年の医療の進歩により長期生存率は60~70%
- 2003年の米国においては、20歳から39歳までの成人の約640人のうち1人が若年がんの経験者であると推測されている。

生殖腺毒性を伴う治療前の若年がん患者の生殖能保存方法

保存方法	利点	欠点
精液凍結保存	ICSIにより成績向上	性成熟した患者のみ
精原幹細胞凍結保存 (自己・異種移植)	性未成熟な患者にも応用可能	がん細胞移植 優襲的 手技 未知の感染
精巣組織凍結保存 (自己・異種移植)		

生殖腺毒性を伴う治療前の若年がん患者の生殖能保存方法

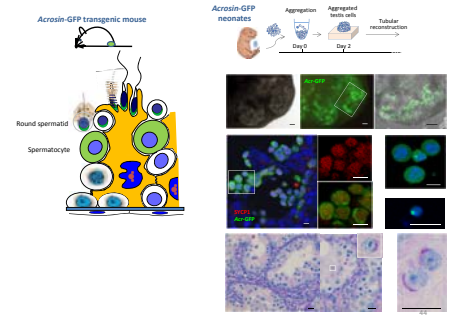
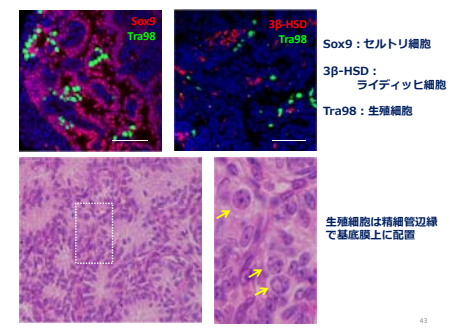
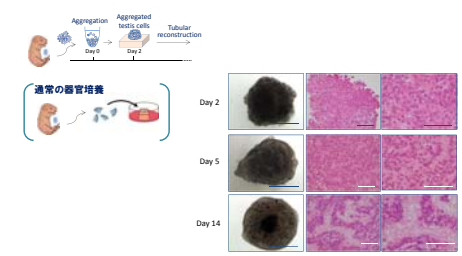
保存方法	利点	欠点
精液凍結保存	ICSIにより成績向上	性成熟した患者のみ
精原幹細胞凍結保存 (自己・異種移植)	性未成熟な患者にも応用可能	がん細胞移植 優襲的 手技 未知の感染
精巣組織凍結保存 (自己・異種移植)		



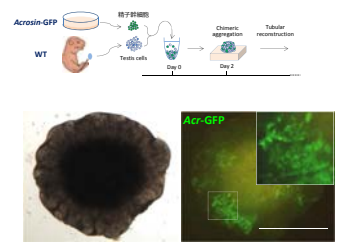
内容

1. 臨床的背景
2. 器官培養法によるin vitroでの精子産生
3. 体外での精巣組織の再構成 個々の患者に3つめの精巣を体外でつくる? スライド6枚
4. 器官培養法の発展の可能性

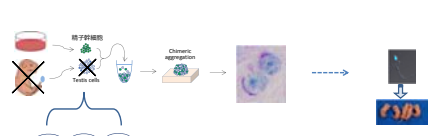
In vitroでの精巣組織の再構成



In vitro 再構成法



In vitro 再構成法の将来展望



内容

1. 臨床的背景
2. 器官培養法によるin vitroでの精子産生
3. 体外での精巣組織の再構成
4. 器官培養法の発展の可能性 スライド3枚

